

予防看護学研究の進展

世界一の超長寿社会を迎える我が国において、年々増大し続ける国民医療費は現在の非常に大きな問題となっており、介護予防が厚生労働省の最も重要な課題となっているのもその現れである。

介護予防は予防看護学の大きなテーマでもある。社会福祉制度の進んだ北欧諸国では、予防看護学の研究が着実に進んでいる。今後、日本においても国民の健康の保持増進において予防看護学の研究が非常に重要になることが予想される。従来の臨床対人ケア研究にとどまらず、予防に向けた看護学研究の新しい進展が大いに期待されている。

本焦点では、看護学研究のなかで、ますます重要性が高まりつつある予防看護学研究について、研究例も含めて幅広く紹介する。まず、「北欧における予防看護学の進展」については、フィンランドにおける看護大学の例を参考に教育と研究を検討する。また、予防看護学の研究例として、現在ますます重要性が高まりつつある5つのテーマ「褥瘡予防の看護研究」「病院感染予防の看護研究」「乳幼児における言語発達障害予防の看護研究」「セルフケア研究と予防看護学—糖尿病患者セルフケア能力測定ツール開発研究を通して」「メンタルヘルスにおける予防的看護ケア—患者と家族のレジリエンスの促進をめざして」について、長年の間、研究を続けている有力な研究者の方々に、ご自身の研究をもとに執筆いただいた。

また、実験研究が少ない看護学研究では、研究手法に数理科学的な疫学手法を用いることが少なくないことから、予防看護学の研究においても有用な疫学手法について、新しい側面より、国際医療福祉大学の加藤憲司先生に、スウェーデンのカロリンスカ大学博士課程で学ばれた最新の解析手法を紹介していただいた（「予防看護学研究と新しい疫学」）。

今後、我が国において、超長寿社会を支える上で役立つ予防看護学研究が着実に進展し、国民の健康の保持増進に大きく寄与することが強く望まれよう。

（企画：早川和生 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻教授）